

会報

◇奈良大学史学会総会

六月四日(月)、本学において、第二十五回奈良大学史学会総会を行った。二〇〇六年度の決算・会計監査報告及び事業報告が行われ、ついで二〇〇七年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

二〇〇七年度の役員は以下の通り。

▽会長

丸山 幸彦

▽副会長

佐々木 克

▽教員委員

(編集・会計)

足立 広明

(交換)

森田 憲司

(監査)

鎌田 道隆

青木 芳夫

▽学生委員

(代表)

田中孝太郎

(副代表)

大山 侑一

(青垣祭企画実行局長) 福井 涼子

(総務・広報局長) 手嶋 幸子

(四回生委員) 田中孝太郎 中村 裕明 日比野希由

船石 佳彦 増田 真吾

(三回生委員) 岡部 愛 静屋沙代子 中澤由香里

福井 涼子 森田 隆寛

(二回生委員) 伊藤 正尋 伊藤 美怜 大山 侑一

加藤 啓祐 志磨村太一 下元 美輝 手嶋 幸子

野崎 千裕 吉川 神奈

(一回生委員) 梅谷 祐輔 大前 拓也 小田 好恵

小野真理子 金岡 初奈 北井 涼子 木下 了保

坂本 真菜 鈴木恵梨香 中原 大典 前田 拡志

山本 洋光

◇特別講義

六月四日(月)、史学会総会に引き続き、特別講義が行われた。講師・演題は以下の通り。

愛宕 元氏(京都大学名誉教授)

「中国の陵墓について」

六月二五日(月)特別講義が行われた。講師・演題は以

下の通り。

渡辺晃宏氏（奈良文化財研究所史料研究室長）

「木簡から平城京を読む」

◇青垣祭

毎年恒例となった青垣祭（学園祭）での展示発表は、本年度「三大太郎がゆく〜昔話の裏側〜」というタイトルで「昔話の歴史的解釈」をテーマに取り上げた。浦島太郎、金太郎、桃太郎の三つの昔話を三大太郎と定義し、それぞれについて物語の起源や物語に影響を与えた歴史背景を調べた。会場では、それぞれの昔話の浮世絵や絵巻物などを展示し、さらに日本地図上で各地に伝わる異なった伝説を紹介して現在に伝わる話との違いが一目で分かるようにした。また、竜宮城や鬼ヶ島などの想像上の場所を再現したミニチュアなども解説付きで展示し、小さい子供からお年寄りまで非常に関心を持ってもらえた。十一月一日（木）から十一月三日（土）の三日間で延べ人の来場者が訪れた。

ご協力いただいた方々には深くお礼を申し上げます。

◇体験ツアー

今年の体験ツアーは、十一月二十三日（金）に一、二回生を中心に企画した「長谷寺見学ツアー」を実施した。紅葉の美しい長谷寺周辺を、学生委員の解説を交えて散策した。

◇「史学会会報」等の発行

奈良大学史学会の活動の普及を目的として、「史学会会報」を五月、六月、十月、十二月に発行し、史学会の企画案内や季節の話題等を掲載した。

また、本年度も一回生を対象に、来年度以降の講読・ゼミを決定する上での参考資料として、各ゼミに所属する学生の執筆による「講読紹介」を発行した。

平成十八年度史学科卒業論文題目

【日本史】

造酒司の基礎的考察

厳島神社の神仏習合について

勸解由使停廃をめぐる諸問題

會田 朋子

石井創次郎

岩村 彩子

後宮十二司についての一考察

—解体と残存の理由—

大町 圭司

日本古代の喪葬儀礼について

九世紀の皇后の変質について

山本 美穂

藤原仲麻呂の政策についての一考察

神谷 伸久

—仁明朝以降の皇后不在理由を中心に—

吉村 知香

藤原緒嗣の研究

木本 緒嗣

☆ ☆ ☆

日本古代の駅制・伝馬制についての考察

田中 孝明

醍醐寺領越前国牛が原荘について

伊井 祐一

古代医療制度について

田中 美穂

—牛が原荘の転換期・滅亡期—

蝦夷の呼称と意義

長屋 徹

中世都市鎌倉の発展について

宇野かおる

律令制下における郡司任用基準とその変遷について

西野 真央

—稲瀬川・滑川の湊から和賀江島築港の意義を問う—

大谷 慧

古代における陵墓管理の変遷

畠山 洸

—幡多地方にみる交通・交易の発展史—

—延喜諸陵寮式成立過程を中心に—

古代軍事制度の一考察

原 崇

自然法爾の世界観

高羽 将人

—律令制軍団の成立について—

藤原仲麻呂と祥瑞

平田 務

—経覚私要鈔に見る交易の品々—

陰陽寮の成立を巡って

福本 真衣

湖上交通の発展と近江の経済活動

長尾 梓

行基の救済活動についての一考察

古谷 隆志

中世荘園における悪党の発生について

野村 直道

大仏造立についての考察

松本 寛之

—丹波国富田荘における悪党発生要因—

菱田 真由

源高明の生涯

水巻 友希

中世における刀指し

松岡 新也

平安時代初期の式部省と兵部省の関係について

柳瀬 真理

木曾義仲再評価論

森下 勝弘

—長尾庄の成立と領有変遷—

一遍上人について

山内 愛

中世における自害について

西岡 一彦

—捨聖の捨てられなかったもの—

—『太平記』を中心に—

鎌倉時代における北条氏による執権政治について

文祿の役と島津氏について

西岡 広山

渡邊 亮太

大谷吉継に関する考察

前田 学

☆ ☆ ☆

—九州征伐・奥羽仕置の視点から—

豊臣秀長について

浅田 浩樹

魚津城の戦いについて

宮崎 琢也

—その家臣を中心に—

—戦いの検証と越中国人の動向—

島津家と豊臣政権

岩元 俊隆

三好長慶政権について

吉田 正志

—義久と義弘と国兼—

☆ ☆ ☆

嶋左近清興について

上田 遼

江戸時代中後期における虫と人との関わりについて

青山 雄太

戦国期近江の流通について

尾上 勇人

—都市の文化を中心として—

石野 裕也

—千草・八風街道、桑名における商人宿を中心に—

近世・近代における姫路城の修築について

伊藤 剛史

加藤清正について

小原 葉

徳川家康の大御所政治に見る西日本統制

植田真希子

—朝鮮侵略の経緯・殺戮行為を中心として—

近世上方歌舞伎における芝居と観客の関係について

植田真希子

瀬戸内の海賊村上水軍

高松 幸弘

近世中期以降の北摂地域における地域産業の性格と

大塩 敏典

—米島村上氏の厳島合戦の参加・非参加を中心に—

その変化

大塩 敏典

天守の成立過程について

中谷 青史

十七世紀後半の備前百間川、沖新田造成における

大野 正晴

—安土城天主の造営—

岡山藩、指導層の動向

大野 正晴

中世戦国時代の堺について

成田 竹志

岡山藩、指導層の動向

大野 正晴

—中世堺の水運の発展を支えた村上氏と諸地域—

寛政以降の見立番付における名古屋文化の形成

加藤 嘉一

江戸時代の民間療法にみる信仰と施療

☆ ☆ ☆

浅野 祐喜

江戸時代における小鳥との共生と飼育文化の形成

川崎 恵美

江藤新平の思想と行動

— 民法典編纂事業からみる江藤の思想 —

池上太一郎

「鎖国」に見る江戸幕府の支配体制

肥塚 和弥

軍港島の展開と終焉

アジア・太平洋戦争と国民

— 戦争責任とどのように向き合ったか —

石原 章裕

多様化と流行

近間奈津美

アジア太平洋戦争時のスポーツ

兵庫県における米騒動の展開

— 二・二六事件について —

岩井 奉子

江戸幕府の日露交渉と外交意識の変質

名和 義幸

太平洋戦争と教育

金子みすゞの世界

— 明治維新と西郷隆盛の世界 —

内海 聖士

近世中期以降の江戸における料理茶屋の発展と食文化の形成

東岡 良典

西南戦争における薩摩軍事情

昭和初期の農山漁村経済更生運動

— 奈良県の事例を中心に —

島谷 幸佑

近世後期における登山の多様化と地域社会

丸尾可奈子

長野県における教育と教育会活動

— 信濃木崎・木曾両夏期大学を中心に —

進藤 祐子

伊能忠敬全国測量事業と支援体制の変化

宮本 駿

川上音二郎の履歴書

長野県における教育と教育会活動

— 信濃木崎・木曾両夏期大学を中心に —

鈴木 伸樹

近世前期における長崎の行政と都市形成

安永 和樹

昭和初期の農山漁村経済更生運動

— 奈良県の事例を中心に —

田村 葉子

天保期の大坂における民衆の動向と社会不安

山岡 文美

近世後期の食事観にみる都市社会の実相

山口 英之

中村 壯

「都林泉名勝図会」に見る社寺庭園の名所化と庶民の観賞

山本奈央子

吉田松陰の遊学

— 信濃木崎・木曾両夏期大学を中心に —

樋口 恭士

— 青物売買を通して —

太平洋戦争と学生

近代日本の町村合併

—奈良県における被差別部落をめぐって—

自由民権期における憲法思想

近代日本における自転車の歴史について

—堺の自転車工業を中心に—

日本国憲法についての考察

近代綿糸紡績業と女工

—奈良県を中心に—

【東洋史】

運軍と私貨

明末における民衆の闘争

—織備の変と蘇州という地域について—

元代広州における南海貿易

—「大徳南海志」より見た貿易—

☆ ☆ ☆

秦の滅亡と趙高

—趙高の復讐—

森本 康太

山本 直哉

山本 憲和

多田 直人

田中 秀実

山口 拓郎

岩崎 和外

田島 彰裕

三浦 紘史

東 裕希

吐蕃王国成立期における国内統治策

—宰相ガルを中心とする—

望楼建築より見た豪族生活の一考察

古代中国における神話の存在とその意義について

中国古代における商人の諸形態

金庚信將軍を通してみた統一新羅成立について

秦・漢時代の奴隸について

—財政政策に見るその存在価値とは—

漢代における酷吏の一考察

東南アジア世界の交易について

—港市国家扶南が他国と関わる理由—

漢代の易に関する一考察

西晋武帝期における後嗣問題をめぐる抗争について

睡虎地秦簡からみた秦の南方支配

—秦と楚の曆を手がかりに—

三国時代における兵法について

岩坪あかね

小野原俊樹

川原美智代

北口 康寛

西尾 啓智

廣野 仁美

福田 浩之

藤 佑樹

間島多佳子

矢頭 昌樹

山田 原野

勝瀬 俊介

【西洋史】

葬祭文学からみる太陽神ラー信仰とオシリス信仰の

誕生と関係

石倉 典子

プトレマイオス朝エジプトにおける在地社会の変容

—エドフの事例を中心に—

石田 真衣

古代ローマの食文化

—古代ローマの文学作品から見る食の風景—

加護えり奈

古典期におけるアテナイ人と秘儀宗教

—エレウシスの秘儀を具体例として—

川谷 緑

ハトシエプストとトトメス3世の統治について

—アクエンアテンの改革の末端として—

佐藤 友治

オスマン帝国の支配・宗教・社会

—十四、十六世紀のバルカンを中心に—

高谷 有紀

古代におけるプラトン思想と、近代における

その解釈の変遷について

西野 晶洋

古代エジプト人の宗教観とミイラについて

—死者儀礼とミイラづくりの動機からの考察—

長谷川洋平

ピザンツ帝国とハギア・ソフィア

エジプト古王国時代におけるピラミッド複合体について

—その機能と役割—

濱田 美子
林 加奈子

古代ギリシアの同性愛の実態と女性のあり方について

原田 麗子

古代エジプト第一中間期の研究

前田 倫男

—人間の思想とその変化—

☆ ☆ ☆

ハプスブルク家とウィーン

以倉 由莉

—十八世紀以降の都市と文化を中心に—

ゴシック建築の歴史的展開

伊藤 繁

—西欧中世における教会建築—

西欧中世のベスト流行の歴史的展開について 奥 健太郎

テューダー朝イングランド絶対王政の発展について 宿 恵介

レコンキスタの展開について 高田 康弘

西欧中世庶民の日常生活について 丹生 真里

近世ロシアにおける西欧化政策 千葉美保子

—十七世紀初期ロマノフ朝を中心に—

西欧中世の騎士階級の変遷 中川真理子

☆ ☆ ☆

『ウォー・ギルド・インフォメーションプログラム』に

関する一考察

井上 敏孝

ドイツにおける都市と環境問題

太田 晶子

秦漢時代の史の変遷

吉川 佑貴

—日本は環境先進国ドイツから何を学ぶか—

—令史の職能を手がかりに—

マヤ文明に関する一考察

鈴木 裕美

日本古代奴婢制の解体過程について

上田 修平

—古典期マヤの王権強化について—

延暦年間以降の浮浪人政策についての—考察

荻野 弘喜

ヨーロッパの教科書にみる第二次世界大戦

竹政 俊和

モンゴルにおける文化遺産と地元住民

清水奈都紀

十九世紀のパリ

谷村 智哉

近世後期の時壇関係をめぐる権力と寺院

林 宏俊

—その歴史と変遷—

—京都を中心に—

日本の世界自然遺産

松村 豪之

—人間との関係—

ペルー・アンデスの農業景観

森西まどか

—アンデネスの文化的価値—

平成十八年度文学研究科修士論文題目(史学関係)

五月五日節日考

奥山 大石

近世後期における奈良の行政と奉行の役割

白水伊代里

—「軍府記事」を中心として—

近代フランスにおけるブルジョワ音楽の成立と展開

山賀智佳子